

海外 病院研修



ハワイ臨床実習報告記

～なんて過酷な家庭医実習～

医学科6年 幅 千里

1. 経緯

2004年5月31日から6月25日にかけて4週間、米国ハワイにおける臨床実習のプログラムに同じく医学科6年の吉田和樹君とともに参加しました。このプログラムは、ハワイ大学John A. Burns School of Medicine, Department of International Health and Medicineが主催しているものです。全国の学生が参加しており、私の前の期間には昭和医科大学の2名が実習し、同期には東海大の1名、また私の後には、慶應大学と日本医大の学生計3



5/29(土)、30(日) ホノルル到着
Kaukani(実習先病院と滞在先アパートがある町)に行く。観光などとして過ごす。
5/31(月) 6/4(金) 第1週目

(月) Kaukani Medical Center (ハワイ大学医学部の教育関連病院)でオリエンテーション、身体診察のトレーニングを受ける。
(火) オリエンテーション、ICU Round(回診)などに参加する。
(水) 身体診察を30分間模擬患者で行うテストを受ける。
(木) Oncology Round, ICU Round, ER実習をする。ハワイ大のスピーチ学の先生の講義(症例プレゼンテーションの実践練習、毎週1回)を受ける。

(金) 問診・身体診察を1時間模擬患者で行い、評価者にプレゼンするテストを受ける。
6/7(月) 6/11(金) 第2週目
6/14(月) 6/18(金) 第3週目
Kaukani Medical Centerの内科チームに入って臨床実習を行う。

6/21(月) 6/25(金) 第4週目
家庭医のクリニックで実習する。
6/26(土) 帰国

3. 家庭医クリニックの実習について

実習4週間のうち最終週は、家庭医のクリニックでの実習でした。とても印象深かったので特に報告させていただきます。Dr.Tはその名前前から日系米国人かと思いきや、ハワイでは患者さんにも医師にも日本人の名前で日系米国人の人が実在に多いので、沖繩出身で高校卒業後渡米してハワイ大学医学部を卒業されたそうでした。剣道の達人で宮本武蔵に傾倒されている、とても威勢のいい先生です。実習前に配布されたマニュアルには「Dojo(道場) サバイバル・マニュアル」と記されていました。また、このクリニックにはハワイ大学医学部の学生も学校のカリキュラムとして



家庭医療の実習に来ます。私は、クリニック実習の前の2週間にしていたKaukani病院での内科チームでの実習中、ハワイ大出身のレジデントたちに「あそこは大変だよ。」Dr.TはBuster Buster(忙しがりやさん)だから、「おどされたり、からかわれられた。ですから、いったいどんな実習になるのだろうか?」と期待と不安を抱いていました。

家庭医療の実習に来ます。私は、クリニック実習の前の2週間にしていたKaukani病院での内科チームでの実習中、ハワイ大出身のレジデントたちに「あそこは大変だよ。」Dr.TはBuster Buster(忙しがりやさん)だから、「おどされたり、からかわれられた。ですから、いったいどんな実習になるのだろうか?」と期待と不安を抱いていました。

家庭医療の実習に来ます。私は、クリニック実習の前の2週間にしていたKaukani病院での内科チームでの実習中、ハワイ大出身のレジデントたちに「あそこは大変だよ。」Dr.TはBuster Buster(忙しがりやさん)だから、「おどされたり、からかわれられた。ですから、いったいどんな実習になるのだろうか?」と期待と不安を抱いていました。

家庭医療の実習に来ます。私は、クリニック実習の前の2週間にしていたKaukani病院での内科チームでの実習中、ハワイ大出身のレジデントたちに「あそこは大変だよ。」Dr.TはBuster Buster(忙しがりやさん)だから、「おどされたり、からかわれられた。ですから、いったいどんな実習になるのだろうか?」と期待と不安を抱いていました。

家庭医療の実習に来ます。私は、クリニック実習の前の2週間にしていたKaukani病院での内科チームでの実習中、ハワイ大出身のレジデントたちに「あそこは大変だよ。」Dr.TはBuster Buster(忙しがりやさん)だから、「おどされたり、からかわれられた。ですから、いったいどんな実習になるのだろうか?」と期待と不安を抱いていました。



ファイナルアンサー

コードステータスという選択

医学科6年 吉田 和樹

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

患者は週末に呼吸困難を訴えて入院してきた高齢の女性で、肺腫の全身転移があり、もともと状態はあまり良くなかった。呼吸困難の原因は右肺の肺炎であることが判明したが、末期がんであることを考慮して、蘇生に対する意思表示である「コードステータス」は、いつかの延命行為を希望しない「ノーコード」の状態になっていた。クアキニ病院での実習中に経験し、非常に印象に残ったこの一症例を通して、自分の経験を振り返り、米国の病院での終末期医療は、一定の書式を用いて明文化されている。入院の時点で患者には「コードステータス」の記入が求められる。例えば私が実習したクアキニメディカルセンターでは、「呼吸管理のための気管挿管」、「薬剤の使用」、「抗不整脈の使用」、「電気ショックによる除細動」の四項目

クーポンを頂きました。

ここがうまいよ 医大生



串源(くしげん)



このコーナーでは筆者が独自の偏見でおいしいと思うお店を紹介したいと思います。今回は「串源(くしげん)」さんに取材に行きました。皆さんもご存知の通り、鍋島キャンパスの西門の

目の前にあり、とてもアクセスしやすい場所にあります。内装はすごく落ち着いた雰囲気、照明も少し落としてあるお洒落な居酒屋です。スタッフの方は皆さん若く、気さくでとても話しやすいです。奥には座敷があり20名くらいは入るので、大人数でも大丈夫です。カウンターもあるので一人酒も楽しめます。

昨年の11月にオープンした串源さんは、江北町にある焼き鳥屋さん(同名)の2号店だそうです。ごとの新鮮な料理が食べ

られます。旬の物が食べられるって嬉しいですよ。ね！「お店が混んでいないときは、リクエストすればメニューにない料理も出してくれますね。」ということでした。

お酒の種類も豊富で、芋焼酎も各種取り揃えられています。女性に人気なのが、海芋焼酎、もぐら芋焼酎。キープもできるので安心です。チーフのお勧めは岐阜県の日本酒・蘭奢侍(らんじょたい)で、飲んだらほまつちやうそうです。カクテルも20種類くらいあり、女性が行きやすいお店だなという印象を受けました。週末は店長のお友達のパーティンさんがいらつしやるので、オリジナルカクテルも飲みます。ちなみに、日替わ

りのでキキもありませんよ！
スタッフの皆さんから医学部生に一言「ぜひ飲みに来て暴れてくださいコンパ承ります。」
最後に、バイト募集(ホールスタッフ)のお知らせです。明るく楽しく、人望のあるあなた！男女は問いませんのでやる気のある方はお店までご連絡ください。(田代・月田)

定休日 なし
営業時間
17:00~23:30(OS)
24:00まで
ご予約・お問い合わせ
TEL 0952-3310044
佐賀市鍋島5丁目4-12

旅いこちすいろうく【1】

南の島の牛の背中

誰も一度はこの光景をテレビや写真で見たことがあると思う。たくさんの人を荷台に載せて、青い空の下、のんびりと牛車が海を渡る姿。実際にこの光景はヤマネコで有名な西表島の景色だ。いつか私も牛で海を渡りたい。あれこそ私の「島気分」に欠かせないと思う思い込み。それだけで十分な理由だった。西表島から牛に乗って由布島という島に向かうのだが由布島に何かあるのかなんて知ったことではない。あくまで私の中では牛車は「交通手段」ではなく「目的」だったのだ。



誰しも一度はこの光景をテレビや写真で見たことがあると思う。たくさんの人を荷台に載せて、青い空の下、のんびりと牛車が海を渡る姿。実際にこの光景はヤマネコで有名な西表島の景色だ。いつか私も牛で海を渡りたい。あれこそ私の「島気分」に欠かせないと思う思い込み。それだけで十分な理由だった。西表島から牛に乗って由布島という島に向かうのだが由布島に何かあるのかなんて知ったことではない。あくまで私の中では牛車は「交通手段」ではなく「目的」だったのだ。

乗りに到着すると、



乗りに到着すると、

部活動紹介

卓球部



私たち卓球部は部員15人で、とてもアットホームな部活です。最近、卓球人気なのでそれに便乗して!?活発に楽しく活動しています。練習は毎週水(13:00~16:00)、金、土(16:30~19:00)、体育館で行っています。初心者から経験者まで部員のレベルは幅広く、それぞれの目的に沿って練習しています。成績は、2004年の九山において、男子が準優勝、女子も三位という結果です。

だから経験者にも満足いく練習ができると思っています。また、初心者に対しても経験者が教えたりしているので初心者の方もすぐに慣れることができます。こう聞くと卓球部はとて大変と思うかもしれませんが、実際は、のんびりと活動をしてい

ます。今年は久しぶりに西医体にも参加しました。来年も参加して、部活をより活性化したいと考えています。今年是一年生がたくさん入部したので、これからまた皆で仲良く部活を盛り上げていきます。最後に卓球部は年中社員募集中です。興味のある方は今からでも遅くないので、ぜひ一度体育館に足を運んでみてください。一緒に卓球を楽しみましょう☆ キャプテン:北村(医2年)

成された団体です。現在の部員数は約30名で、主に各地で開催されるワークショップ(全て実技形式)に参加する形で活動しています。佐賀では一昨年の12月と昨年の7月にワークショップを開催しました。モットーはチーム医療の大切さを体感してもらうことです。参加はもちろん運営も全て学生で行っているため、非常に垣根が低く、大学との交流も盛んです。救急に興味がない人でも参加することで興味が出るし、また救急に限らず医師として大切なことを学べることも間違いありません。

次回(2月)岡山で、4月に大阪で、そして5月には佐賀で開催する予定なので興味のある方は4年(来年度5年)の藤岡まで一報を。参加できる人数に制限があるので早めのご連絡をお願いします。☆代表:藤岡丈士(医4年) (写真は12月に島根で開催されたワークショップにて) (吉田・田中)

☆☆クリスマス☆☆

★12/17★
合唱部では毎年クリスマスの時期にキャロリングを行っています。これは、賛美歌を歌いながらキャンドルを持って病院内を回るというものです。入院されている患者さんに少しでも楽しんでいただけたらと思います。この日のために合唱部以外からも参加者を募り、練習してきました。貴重な経験ができ、病院や学生課の方など、ご協力いただいた様々な方には大変感謝しております。興味があると思われるなら、ぜひ次回一緒に歌ってみませんか? (合唱部より)

☆12/22☆
病院の外来ロビーにおいて、合唱部、室内楽部、鍋島中学校合唱部によるコンサートが開催されました。涙を拭う患者さんもあるほどとても感動的なコンサートになりました。入院患者さんたちは楽しいひと時を過ごされたようで、大変喜んでくれました。少しでも患者さんに喜んでいただけることをこれからも企画していきたいと思っています。(SMILEより)

室内楽部は今回クリスマスの定番曲である We Wish You A Merry Christmas と Sleigh Ride (そりすべり)、そして映画タイタニックの主題歌である My Heart Will Go On の3曲を演奏しました。学祭が終わってから日が浅かったですが、個々が努力して積極的に合奏に加わったことで質が向上し、特に1年生の努力と上達ぶりには感心するばかりでした。また、今回特別ゲストとして顧問である小橋教授にご参加いただき、大人数での合奏ができました。音楽を演奏する人にとって、人前で演奏することは何よりの上達の機会だと思います。今回の良かった点・悪かった点が次に生かせるよう、そして、私たちの演奏を聴いてくださる方にもっと良い音楽が提供できるよう、部員みんなで努力してゆこうと思います。(室内楽部より) (鶴城)

新聞編集委員

植原恒彦教授(編集委員長)
池田豊子教授、内川洋子助教授、尾崎若太助教授
藤井可、安達正時、中司貴大、吉田雄一(医6)岸川優紀、興裕雅代、齊郷智恵美、酒井亜輝子、田中恵、吉田拓哉(医4)河田康祐、田代直規、月田彩子、鶴城雪子(医3)蘭広子、江口香織、江崎香菜子、熊本美子、近藤瑠美、山口紀子(看3)、大家千佳(医2)、小池このみ(医1)
棚町豊二(フォトセンター)
山口一利、坂井光太郎(総務学事課職員)
要望などの連絡先
総務学事課学務係 坂井
sakaik2@post.saga-med.ac.jp

編集後記

受験の季節、12、15、18歳、それぞれの春を指して難関に挑む厳冬のころ。医師、看護師としてまもなく社会に巣立つて行く医学科6年生、看護学科4年生も国家試験に挑みます。13号に続き、今回も海外研修の記事を

お送りしますが、学生諸君の確かな成長を目のあたりにしながら、私は遠い青春を追悔し…。卒業生の皆さん、悔いなき青春を過ごして下さい。(植原)